



青柳園だより

2023年
11月号
文京区立青柳幼稚園

食べることって楽しい！

主任 榎谷 桃代

幼稚園の園庭にミカンがたわわに実りました。夏の終わりごろからだんだんと実が膨らみ始め、10月になると、できたミカンの重みで枝がしなり、地面に付いてしまいそうになるくらいでした。今年は大豊作です。あまりの重みからか、毎日ポトン、ポトンとミカンが落ちていて、その落ちたミカンの皮で色水遊びをして「いい匂い」と言っている幼児もいました。「これは食べてもよいのかな…」と密かに狙っていたのは、私だけではなかったはずです。

10月初旬、実はまだ少し青かったのですが、あまりにも木が重そうだったので「味見」することにしました。きっとまだ酸っぱいのだろうかと連想させましたが、「味見」を希望する方は降園時に親子で実を選んで持ち帰れるようにしました。保護者の方は「これ、食べられるんですね！」と驚きながらも「待ってました」と言わんばかりにミカン狩りをして、翌日子どもたちと「酸っぱかった！」「酸っぱいけど、甘かった」と言っていました。

それから2週間もたたないうちにミカンはすっかり『みかん色』になりました。ミカンをきっかけに、職員室では果物の皮むきについての話題になりました。子どもたちとの話から、皮むきは大人にしてもらっていることが多い様子も伺えました。そこで私たちは「自分で果物の皮を剥いて食べる」という経験を大切にしたい、と思い至りました。そして保護者の方には事前に対処についてお知らせをし、先生や友達と一緒にミカンを採って食べることにしました。

いざミカン狩りの日、ミカンが好きな幼児もあまり好まない幼児も、よくよく見て、おいしそうなものを選んで、一人一つずつミカンを収穫し、大事に水洗いをしてから自分でむいて食べました。自分でむくという経験もとても個人差があります。「好きこそもの上手なれ」という言葉があります。やっぱりミカンが大好きな幼児はご自宅でも食べ慣れているのでしょうか、あっという間におき、ペロッと食べてしまいました。初めてミカンの皮むきに挑戦する幼児もいます。側面からむき始め、なかなかむけなくても一生懸命最後まで手をミカンの果汁だらけにしてむいていました。自分で選んで、やっとの思いでむいたミカンはおいしさもひとしお。今まで食べたことのなかった幼児も一房口に運び、「甘酸っぱくておいしい」と感想を言う姿もありました。

園児が採ってもまだまだ残っているミカン。ばら組（3歳児プレ保育）の親子でもミカン狩りをし、お土産に持ち帰っていただきました。後日、保護者の方に「いつもは食べないんですけど、自分で採ったのが嬉しかったみたいで『おいしいおいしい、もう一個欲しい』と言って食べていました」と教えていただきました。

現代の暮らしでは、食材の旬の季節や、食材がどこから来ているのか、など子どもにとって分かりづらい環境になっていると感じます。これから、本格的な収穫の秋を迎えます。園内ではサツマイモを掘ったり、収穫したポップコーンを食べたりする予定です。冬に向けてニンジンやダイコンの種まきをしたり、春に向けて球根や春野菜の種まきをしたりと楽しみなことがたくさん待っています。このように、四季折々の直接体験を通して、収穫の喜びや自然の恵みへの感謝、そしてそれを皆で分け合うことの大切さを感じ、食べる喜びや食への興味関心を高めていきたいと思っています。

